

2014年 8 月の大気大循環と世界の天候

大気大循環

月平均500 hPa 高度は、西・東シベリアとカナダ東部で正偏差、ヨーロッパ西部とアラスカの南で負偏差となった。亜熱帯ジェット気流は、中央アジアから日本付近にかけてと北米では平年の位置と比べて南偏した。寒帯前線ジェット気流は、全般に明瞭だった。対流圏の気温は、北半球で高温偏差となった。太平洋高気圧は、本州の南東海上では平年より強い一方、本州付近では西への張り出しが弱かった。

熱帯の対流活動は、北太平洋中・東部の熱帯収束帯やアラビア海、インド洋東部で活発、南シナ海から北太平洋西部で不活発だった。赤道季節内振動は比較的ゆっくりと東進し、これに伴う対流不活発な位相が太平洋西部に位置した。対流圏下層では、南シナ海からフィリピン東海上で高気圧性循環偏差だった。対流圏上層では、チベット高気圧は平年より弱かった。南方振動指数は -0.9 だった。

世界の天候

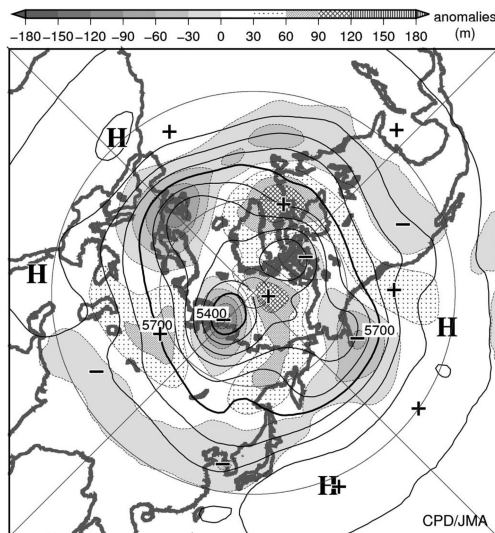
2014年 8 月の世界の月平均気温偏差は $+0.32^{\circ}\text{C}$ （速報値）で、1891年の統計開始以来、最も高い値となった。8 月の世界の平均気温は、上昇傾向が続いており、長期的な上昇率は約 $0.64^{\circ}\text{C}/100$ 年（速報値）である。

主な異常天候発生地域は次のとおり。

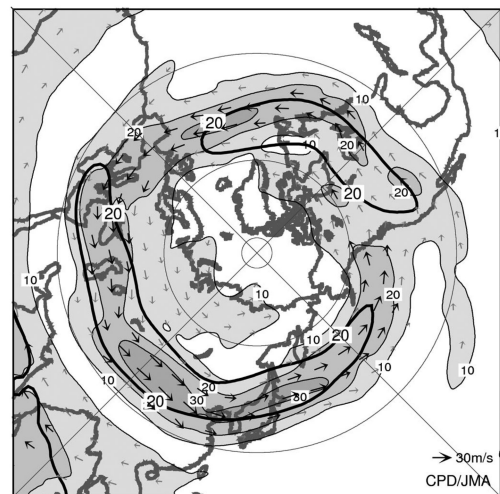
- アラスカ西部～東シベリアで異常高温となった。
- 米国西海岸、メキシコで異常高温となった。
- 西日本～中国南部で異常多雨となった。

（気象庁 地球環境・海洋部 気候情報課）

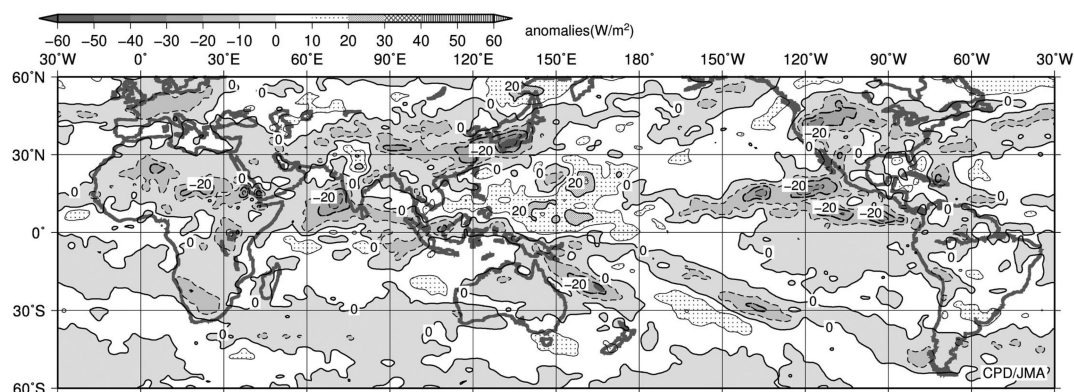
※ より詳細な情報については、気象庁ホームページ「気候系監視速報」をご覧ください。
<http://www.data.jma.go.jp/gmd/cpd/diag/sokuho/index.html>



2014年 8 月の北半球月平均 500 hPa 高度および平年偏差
 等値線間隔は60 m. 陰影は平年偏差. 平年値は1981～2010年の平均値.

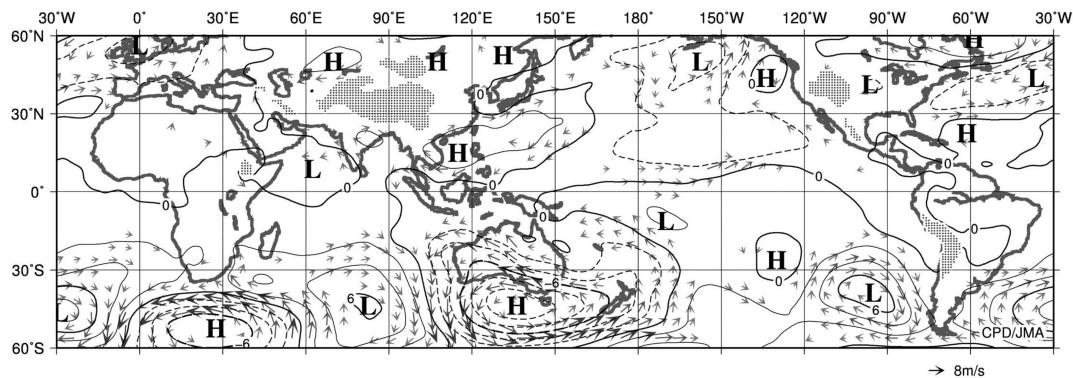


2014年 8 月の北半球月平均 200 hPa 風速および風ベクトル
 等値線間隔は10 m/s. 太実線で囲まれた領域は平年の20 m/s以上の領域を示す. 平年値は1981～2010年の平均値.



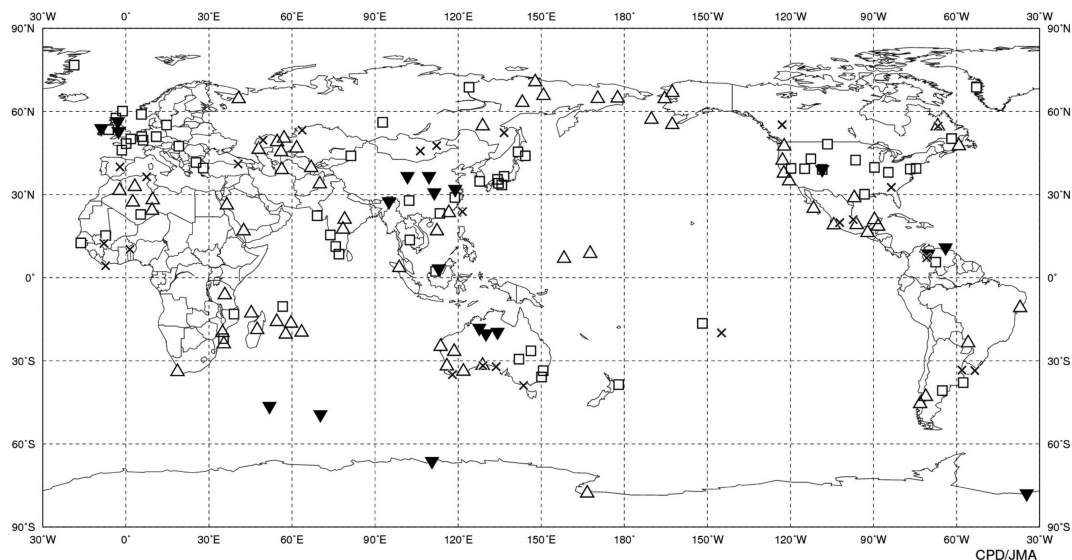
2014年8月の月平均外向き長波放射量年偏差

等値線間隔は10 W/m²で、値が小さいほど対流活動が活発であったと推測される。米国海洋大気庁（NOAA）より提供されたデータを用いて作成。年偏差は1981～2010年の平均値。



2014年8月の月平均850 hPa 流線関数年偏差及び風年偏差ベクトル

流線関数の偏差の等値線間隔は $2 \times 10^6 \text{ m}^2/\text{s}$ 。年偏差は1981～2010年の平均値。



2014年8月の世界の異常天候分布図 △異常高温 ▼異常低温 □異常多雨 ×異常少雨

異常高温・低温は標準偏差の1.83倍を超える場合、異常多雨・少雨は降水5分位値が6および0。